



「小千谷」図幅地域は新潟県の東部に位置します。この地域は日本の油田地帯の一つである新生代新潟堆積盆地の一部にあたり戦前から多くの石油地質学的研究がなされてきたところです。またこの地域は第三紀層地すべりの多発地帯の一つとしても有名で応用地質学的にも重要な地域です。

地質調査所ではここ数年来この地域周辺の地質図幅調査を計画的に進めてきており既に南に隣接する「越後湯沢」図幅（茅原ほか 1981）と「十日町」図幅（柳沢ほか 1985）の2図幅が発刊されています。今回の「小千谷」図幅の完成によって新潟堆積盆地東縁の地質が更に詳しく明らかになったと言えましょう。

「小千谷」図幅地域に分布する地質系統は中生界新第三系一下部更新統及び第四系からなっています。

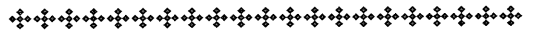
中生界は足尾帯に属する堆積岩類で上権現堂山層群と呼ばれています。この層群はチャート・黒色頁岩・砂岩などからなり図幅の東縁に分布します。

新第三系一下部更新統は下位より城内層群 清本層 西名層 鳥屋ガ峰層 一村尾層 荒谷層 川口層 牛ヶ首層 白岩層 和南津層 魚沼層に区分されています。これらは新生代新潟堆積盆地を埋積する堆積物です。「小千谷」図幅は従来単純に下位から上位に向かって累重していると考えられていたこれらの地層が実は荒谷層以上では互いに同時異相となっている部分が多いことを初めて明らかにしました。このことを地質図上に正確に表すためこの図幅では識別された多くのテフラ鍵層のうち特に重要なもの27枚の分布を詳しく表現しています。さらに魚沼層については鍵層となる海成層の挟みを表現することによって岩相の側方変化が読み取れるように工夫しています。また年代測定と微化石の分析などに基づいてこれらの地層の正確な地質時代が明らかにされています。

第四系は河岸段丘堆積物 地すべり堆積物 氾濫原堆積物などに分けられています。このうち河岸段丘堆積物は信濃川とその支流に沿って分布しこれまでの資料に基づいて11段に区分されています。

このほか報告書では地質構造 石油地質 地すべりなど各項

目について簡潔な記載がなされています。また報告書の最後にはこの地域で認められたテフラ鍵層の柱状図およびその記載更にK-Ar及びフィッシュントラック年代測定の結果が詳しく載せられています。これらは今後の研究の基礎資料として大いに役立つと思われます。



5万分の1地質図幅の新刊

小千谷

OJIYA

5万分の1地質図幅 地域地質研究報告



著者 柳沢幸夫・小林巖雄・竹内圭史
立石雅昭・茅原一也・加藤碩一
発行 工業技術院 地質調査所
取扱先 東京地学協会 (03) 261-0809 262-1401
そのほか全国主要書店
販売価額 4,410円

地質ニュース	第388号	12月号
昭和61年12月1日	定価 ¥ 630	千実費
編集	発行	
発行人	工業技術院地質調査所	
発行所	株式会社 久雄	
	株式会社 実業公報社	
	東京都千代田区九段南4の2の12	
	〒102	
	TeL. (03)265-0951 (代表)	
	振替口座 東京1-32466	
総発売元	株式会社 実業公報社	
	出版事業部	